

国語 一―一	第五学年及び第六学年の内容 語い①	名前	年	組	番
-----------	----------------------	----	---	---	---

取り組んだ日	月	日
--------	---	---

次の に当てはまる言葉をあとの から選び、書きましよう。また、その言葉の意味をあとのAからDの中から選び、() に記号を書きましよう。

① 今日は友達と出かける約束をしていたが、雨が降^ふってきたので、出かけるのが 。()

② 夏休みの三週間、祖母^{そぼ}の家で一緒にすごしたいとこと別れるのは、 。()

③ 夏休みの最終日、線香花火^{せんこう}をしながら 気分になる。()

④ 友達が、ぼくの尊敬^{そんけい}しているスポーツ選手の悪口を言っているのを聞き、 気持ちになった。()

ものがな	物悲しい	わずらわしい	いまましい	なごりおしい
------	------	--------	-------	--------

- A 心をなやますことが多く、気が重いこと。
 B 非常に腹立^{はらだ}たしく感じること。
 C 心がひかれて、別れるのがつらいこと。
 D なんとなく悲しい気分になること。

国語 一―二	第五学年及び第六学年の内容 語い②	名前	年	組	番	取り組んだ日	月	日
-----------	----------------------	----	---	---	---	--------	---	---

次の [] に当てはまる言葉をあとの [] から選び、書きましよう。また、その言葉の意味をあとのAからDの中から選び、() に記号を書きましよう。

- ① 山本先生は、いつも [] 指導しんぱうをしてくださる。()
- ② 彼はサッカーの歴史に [] 人である。()
- ③ 彼は昔から [] 人であり、心配だ。()
- ④ わたしの父は、家族の考えにも反対することが多く、 [] 人である。()

きむずか 気難しい	明るい	向こう見ず	熱意のある
--------------	-----	-------	-------

- A 将来しょうらいのことをよく考えずしよらいに行動してしまうう。
- B 何かと自分の考えにこだわったり、神経質しんけいしつだったりして、あつかいにくい。
- C その物事や方面にくわしい。
- D 強いやる気や意気いきごみをもっている。

国語 一一一	第五学年及び第六学年の内容 古文・漢文①	名前	年	組	番
-----------	-------------------------	----	---	---	---

取り組んだ日	月	日
--------	---	---

次の古文を声に出して読みましょう。

まくらのそうし
枕草子

せいしょうなごん
清少納言

はるはる 春はあけぼの。やう（よ）やう（よ）白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫むらさき
 だちたる雲の細くもくたなびきたる。

なつ（なつ） 夏は夜。月の頃はさらなり、闇やみもなほ、蛍（お）の多く飛びちがひたる。
 また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨あめなど降（お）
 るもをかし。

あき（あき） 秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、鳥からすの寝どころ
 へ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど飛び急ぐさへあはれなり。まいて
 雁かりなどのつらねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし。日入りはて

かぜ（かぜ） 風かぜの音、虫むしの音など、はたいふべきにあらず。
 ふゆ（ふゆ） 冬はつとめて。雪ゆきの降りたるはいふべきにもあらず、霜しものいと白きも、
 またさらでもいと寒さむきに、火ひなど急ぎおこして、炭すみ持て渡るも、いとつ
 きづきし。昼ひるになりて、ぬるくゆるびもていけば、火桶ひおけの火も、白しろき灰はいが
 ちになりてわろし。

国語 一一二	第五学年及び第六学年の内容 古文・漢文②	名前	年	組	番
-----------	-------------------------	----	---	---	---

取り組んだ日	月	日
--------	---	---

次の古文を声に出して読みましょう。

たけとりものがたり
竹取物語

さくしやふめい
作者不明

いま むかし たけとり おきな (う)
今は昔、竹取の翁といふものありけり。

のやま たけ と
野山にまじりて竹を取りつつ、

(ず) つか (い)
よろづのことに使ひけり。

な (ん) (い)
名をば、さぬきのみやつことなむいひける。

たけ なか
その竹の中に、

ひか たけ (ん) ひとすじ
もと光る竹なむ一筋ありける。

あやしがりて、

よ み
寄りて見るに、

つつ なかひか
筒の中光りたり。

み
それを見れば、

ずん ひと
三寸ばかりなる人、

(しゅう) (い)
いとうつくしうてゐたり。

国語
三一

第五学年及び第六学年の内容
話し言葉と書き言葉①

名前

年 組 番

取り組んだ日 月 日

1 はかるを、文に合った漢字に直しましょう。

① 五十メートル走の時間をはかる。

② 身長をはかる。

③ 体重をはかる。

④ タイミングをはかる。

⑤ 解決かいけつをはかる。

⑥ 校庭の面積をはかる。

⑦ 熱をはかる。

2 あついを、文に合った漢字に直しましょう。

① 今年の夏はとてもあつい。

② 砂浜すなはまがあついので素足すあしで歩くことができない。

③ 分あつい本を読む。

④ あつい布団ふとんをかける。

⑤ かぜをひいて、体があつい。

⑥ 彼は人情にんじょうがあつい。

⑦ あつい湯を用意する。

国語 三十二	第五学年及び第六学年の内容 話し言葉と書き言葉②	名前	年 組 番	取り組んだ日 月 日
-----------	-----------------------------	----	-------	---------------

1 つとめるを、文に合った漢字に直しましょう。

2 おさめるを、文に合った漢字に直しましょう。

① 問題の解決かいけつにつとめる。

① 成功をおさめる。

② 会社につとめる。

② 注作品をおさめる。

③ 主役をつとめる。

③ 紛争ふんそうをおさめる。

④ 看病かんびょうにつとめる。

④ 国をおさめる。

⑤ 早寝早起はやねにつとめる。

⑤ 税金ぜいきんをおさめる。

⑥ 委員長をつとめる。

⑥ 遺体いたいをひつぎにおさめる。

⑦ 銀行につとめる。

⑦ 学業をおさめる。

国語 四―一	第五学年及び第六学年の内容 漢字と仮名読み①	名前	年	組	番
-----------	---------------------------	----	---	---	---

取り組んだ日	月	日
--------	---	---

次の漢字の読みを右側に書きましょう。

【ぢ・じ】

- ① 鼻血
- ② 日常
- ③ 間近

- ④ 地味
- ⑤ 縮む
- ⑥ 地割れ

【ず・づ】

- ① 深爪
- ② 湖
- ③ 三日月

- ④ 片付け
- ⑤ 貧しい
- ⑥ 心積もり

次の漢字の読みを右側に書きましょう。

【おお・おう・お・う】

①女王

②通り

③氷

④大きい

⑤様子

⑥往路

⑦横暴

⑧大げさ

⑨当分

⑩尊い

⑪遠目

⑫羊毛

国語 五―一	第五学年及び第六学年の内容 語句の構成、変化①	名前	年	組	番
-----------	----------------------------	----	---	---	---

取り組んだ日	月	日
--------	---	---

の熟語を、種類ごとに分けましょう。

作文	出発	古都
養蚕 <small>ようさん</small>	労働	光線
		遠近
		増減 <small>ぞうげん</small>

①意味が対になる漢字の組み合わせ (例 強弱)

②似た意味の漢字の組み合わせ (例 価値かち)

③上の漢字が下の漢字を修飾する関係にある

組み合わせ (例 車内)

④「―を」「―に」に当たる意味の漢字が下に来る

組み合わせ (例 見物)

国語 五―二	第五学年及び第六学年の内容 語句の構成、変化②	名前	年	組	番
-----------	----------------------------	----	---	---	---

取り組んだ日	月	日
--------	---	---

じゅくご
の熟語を、種類ごとに分けてみましょう。

海底	身体	苦楽	明暗	開店
読書	木刀	先頭		

①意味が対になる漢字の組み合わせ (例 公私こうし)

②似た意味にの漢字の組み合わせ (例 仁愛じんあい)

③上の漢字が下の漢字を修飾しゅうじする関係にある

組み合わせ (例 最善さいぜん)

④「―を」「―に」に当たる意味の漢字が下に来る
組み合わせ (例 帰国)

国語 六一一	第五学年及び第六学年の内容 語句の由来①	名前	年	組	番
-----------	-------------------------	----	---	---	---

取り組んだ日	月	日
--------	---	---

一 次の言葉の由来としてふさわしいものをあとのアからカの中から
 選び、() の中に書きましよう。

- ① おやつ ()
 - ② こめかみ ()
 - ③ うのみ ()
 - ④ しおり ()
 - ⑤ あめんぼう ()
 - ⑥ かえで ()
- ア とらえると水あめのようなにおいがすることから。
- イ 葉の形がカエルの手に似ていることから。
- ウ 八つ時（午後三時ごろ）に食べたことから。
- エ 米など、ものをかむと動く部分であることから。
- オ 山道などで木の枝を折って、帰りの道のしるしとしたことから。
えだ
- カ 鶉うのように食べ物をかまないでのみこむという意味から。

国語 六―二	第五学年及び第六学年の内容 語句の由来②	名前	年	組	番
-----------	-------------------------	----	---	---	---

取り組んだ日	月	日
--------	---	---

一 次の言葉の意味としてふさわしいものを下のアからウの中から
 選び、() の中に書きましよう。

- ① 和語 () ア 古くに中国から入ってきた言葉。
- ② 漢語 () イ 外国(中国以外)から入ってきた言葉。
- ③ 外来語 () ウ もともと日本にあった言葉。

二 次の言葉は、和語・漢語・外来語のどれですか。○で囲みましよう。

- ① ランチ (和語・漢語・外来語)
- ② 昼飯ひるめし (和語・漢語・外来語)
- ③ 昼食ちゆうしょく (和語・漢語・外来語)
- ④ スピード (和語・漢語・外来語)
- ⑤ 速さはや (和語・漢語・外来語)
- ⑥ 速度そくど (和語・漢語・外来語)

国語 七一	第五学年及び第六学年の内容 文や文の構成①	名前	年	組	番
取り組んだ日					
月					
日					

次の――の接続語の働きとしてふさわしいものをあとのアからカの中
 から選び、（ ）の中に書きましょう。

- ① 雨が降^ふってきた。でも、傘^{かさ}はささないで行く。 ()
- ② バスで行くか。それとも電車で行くか迷^{まよ}っている。 ()
- ③ 自由に遊んでよい。た^ただし、室内だけにする。 ()
- ④ 毎日走る練習をした。だ^だから、体力がついたのだ。 ()
- ⑤ 食後にイチゴが出る。ま^また、リンゴも出る。 ()
- ⑥ 家に帰ってきた。そ^そして、宿題をやった。 ()
- ア 前と対立することを述^のべる。
- イ 前のことを理由^{げんいん}や原因にする。
- ウ 前か後か、どちらかを選ぶ。
- エ 前と同様のことを付け加える。
- オ 前^{おきな}のことを補う。
- カ 事柄^{ことばがら}を新^{あたら}しく展^{てん}開^{かい}させる。

国語 七二	第五学年及び第六学年の内容 文や文の構成②	名前	年	組	番
取り組んだ日					
月					
日					

次の文の主語・述語じゆつごを探して、その関係をあとのアからウの中から
 選び、（ ）の中に書きましよう。

- ① 今日は、とても暑い。（ ）
- ② 気温も高く、湿度しつども高い。（ ）
- ③ 日差しが強いので、私は帽子ぼうしをかぶった。（ ）
- ④ 帽子が風で飛んだ。（ ）
- ⑤ わたしは、犬を飼かっている。（ ）
- ⑥ わたしが飼っている犬は、大きい。（ ）
- ⑦ 犬が追いかけているボールは、赤い。（ ）
- ⑧ 犬がくわえたボールを受け取った弟が、走る。（ ）

ア 主語と述語が一組しかない。(単文)

イ 主語と述語が二組以上あって、同等にならないでいる。(重文)

ウ 主語と述語が二組以上あって、修飾関係しゆしけいや付け加える関係

などで同等ではない。(複文)ふくぶん

取り組んだ日 月 日

国語 八一一	第五学年及び第六学年の内容 敬語①	名前	年	組	番
-----------	----------------------	----	---	---	---

次の言葉の尊敬語・謙譲語を書いて、表を完成させましょう。

言葉	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
見 る	見る ご覧 <small>らん</small> になる	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
言 う	言う ①	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
行 く	行く ③	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
し を す る	しを する ③	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
食 べ る	食べる 召 <small>め</small> し上 <small>あ</small> がる ⑤	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
聞 く	聞く お聞 <small>き</small> きになる ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
	尊敬語 相手 <small>あ</small> 手を敬 <small>う</small> やまう気持ち <small>ま</small> を表す				
	謙譲語 自分 <small>み</small> や身内 <small>み</small> の動作 <small>み</small> を謙遜 <small>けん</small> して言うこ とでその動作 <small>み</small> を受ける人 <small>けん</small> への敬意 <small>けん</small> を 表す				

国語 八―二	第五学年及び第六学年の内容 敬語②	名前	年	組	番	取り組んだ日	月	日
-----------	----------------------	----	---	---	---	--------	---	---

次の場面にふさわしい言葉をあとのアからオの中から選び、() の中に書きましよう。

- ① 校長先生が言った。() ()
- ② 「お母さんは、出かけています。」() ()
- ③ 「田中さんが来たと父に伝えておきます。」() ()
- ④ (お客さんへすすめる)「どうぞ食べてください。」() ()
- ⑤ 木村さんに花束をあげた。() ()
- ア 差し上げた
- イ ^めいらつしやった
- ウ 召し上がって
- エ 母
- オ おっしやった

国語 九一	第五学年及び第六学年の内容 表現の工夫①	名前	年 組 番
----------	-------------------------	----	-------

次の詩の表現の工夫としてふさわしいものをアからエの中から選び、
 () の中に書きましよう。

おいしい季節

コリコリ コリコリ
 たき立ての ごはんの中に たくさん入っている
 コリコリ コリコリ
 ちょうどいい歯ごたえで ほんのりあまい
 春はやっぱり たけのご飯
 ようし
 今年も一年 ぐんぐんのびるぞ

シャリシャリ シャリシャリ
 シロップかけて くだものせて
 シャリシャリ シャリシャリ

ひんやりとして とってもあまい
 夏はやっぱり かき氷
 キーン

体が冷ぞう庫みたいだ

ほくほく ほくほく
 あっあつの 石の上にならんでる
 ほくほく ほくほく
 中が 金色にかがやいている
 秋はやっぱり やきいもだ
 ほうら
 食べると 体がこたつみたいだ

ぐっぐつ ぐっぐつ
 お肉に白菜 大根 にんじん いろいろ入れて
 ぐっぐつ ぐっぐつ
 みんなそろっていただきます
 冬はやっぱり おなべで煮まり
 たくさん食べて
 今年も一年 ありがとう

① () 「コリコリ」

② () 「シャリシャリ シャリシャリ」
 「シャリシャリ シャリシャリ」

③ () 「体が冷ぞう庫みたいだ」

④ () 何行かまとめて、内容のまとまりをつくる。

ア ひゆ 比喻 (たとえを使った表現)

イ 反復

ウ 擬声語・擬態語 (音や様子をたとえる表現)

エ 連

文末の言葉によって、文の意味は変わります。

次の文は、どのような意味を伝える言葉になりますか。あとのアからオの中から選んで（ ）に書きましよう。

本を読む。

- ① 本を読みたい。 ()
- ② 本を読むつもりだ。 ()
- ③ 本を読みますか。 ()
- ④ 本を読みなさい。 ()
- ⑤ 本を読みましょう。 ()

ア 相手をさそう。

イ 自分の希望を述べる。

ウ 相手に質問する。

エ 自分の意志を述べる。

オ 相手に命令する。